

今日のトピック インドの経済・市場動向（2018年2月後半）

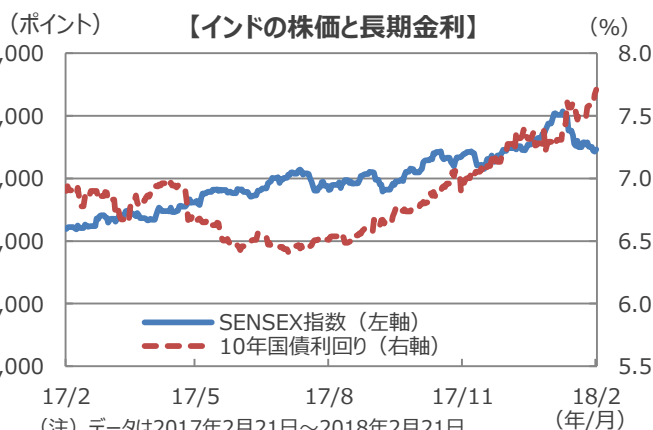
株式市場は調整、長期金利は7.7%台へ上昇

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	2月21日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.66	▲0.3	▲4.1	▲2.1	▲2.1
ルピー/米ドル (ルピー)	64.77	1.1	1.5	1.0	▲3.2
金利					
政策金利 (%)	6.00	0.0	0.0	0.0	▲0.3
10年国債利回り (%)	7.71	0.2	0.4	1.2	0.8
株式指数					
SENSEX指数	33,845	▲0.9	▲4.7	8.3	17.7

(注) データは2018年2月21日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



ポイント1 インド株式市場は調整

競争激化懸念や不正取引で銀行株が重石に

- インド株式市場は、米長期金利上昇を契機に世界的に株価が下落したことを受けて、1月末から調整しています。主要国の株式市場は反発し、リスク回避の動きは一旦後退していますが、インド株式市場は銀行株の下落が重石となり、出遅れています。インドの銀行株は、早期に不良債権処理を行うルールが発表され、国営銀行への資本注入に伴う銀行間の競争激化が嫌気されたことに加え、インド国営銀行2位のパンジャブ・ナショナル銀行の巨額の不正取引が発覚したことで投資家心理が悪化し、大きく下落しました。

ポイント2 長期金利は7.7%台へ上昇

債券市場はMPC議事録を嫌気

- インド準備銀行 (RBI) は2月の金融政策委員会 (MPC) で政策金利を据え置きましたが、21日に発表されたMPC議事録では、RBIがタカ派に傾いていることが示されました。債券市場では、インフレが上向き、財政収支が悪化する中で、RBIが引き締め姿勢に転じることが警戒され、長期金利は7.7%台へ上昇しました。

今後の展開 インド株式市場は徐々に持ち直しへ

- 足元のインド株式市場は銀行株が重石となり、上値の重い展開となっています。しかし、景気の加速が見込まれ、企業業績の好調さが続く中で、株式市場は徐々に持ち直しと思われます。国営銀行へのテコ入れに伴う銀行間の競争激化は、長期的には銀行の財務改善や不良債権処理の進展に伴う経済の活性化を促すため、プラスの効果为上回ると考えられます。
- 債券市場では、RBIが引き締め姿勢に転じることが警戒されていますが、これまでの金利上昇によりある程度市場の織り込みが進んだと見られるため、今後の金利上昇余地は限られてくると思われます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも チェック!

2018年2月8日 インドの経済・市場動向（2018年2月前半）

2018年2月5日 インドの『2018年度予算案』は総選挙を意識

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。